

令和7年度 学校経営計画に対する中間報告書

				石川県立羽咋工業高等学校	
重点目標		具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
1	【授業改善】 生徒が主体的に取り組むよう、個別最適な学習を推進することで、基礎的な知識・技能（技術）の定着に加え、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を育成する。	① 主体的・対話的で深い学びの授業の実践に加え、個別最適な学習をさらに推進し、生徒の資質・能力の育成を図る。 教諭は年1回公開授業を行い、授業改善の実践を公開する。教員は年6回以上授業を参観する。 授業改善についての研究紀要を作成し、次年度に繋げる。	主体的で個別最適な学びの授業の実践により、各授業の生徒の8割以上が、各教科の特性に応じた資質・能力が向上していると回答する、教員の割合が A 90％以上 B 70％～90％未満 C 50％～70％未満 D 50％未満	教員対象に 7月にアンケート調査 94％ 中間評価 A	「十分向上させている」・「ある程度向上させている」を合わせた評価は94％となり、判定基準の90％を上回る結果となった。同時期に実施した生徒対象の授業評価アンケートでも、「学力・技術・技能等が確実に向上する授業である」に「あてはまる」と回答した生徒が99％にのぼり、教員・生徒相互に生徒の資質・能力の向上を実感している結果となった。 後期も引き続き chromebook 等を効果的に使用して、学びが深まる授業を全教員が実践していきたい。
			主体的で個別最適な学びの工夫により、より意欲的に授業に参加していると回答する、生徒の割合が A 90％以上 B 70％～90％未満 C 50％～70％未満 D 50％未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 97％ 中間評価 A	「よくあてはまる」・「ややあてはまる」を合わせ評価は97％となり、判定基準の90％を大きく上回る結果となった。同時期に実施した学習状況アンケートでも、「自身の理解度に合わせて学習内容や方法を適切にしたり、興味関心のある内容を調べたりすることで、学習内容が深まった」に「あてはまる」と回答した生徒が98％にのぼり、一斉授業のみではなく、個別の理解度に応じた学びの成果が現れている。 後期も生徒が自ら見つけた課題や興味関心に応じた指導ができるように、全教員が生徒理解に努め、生徒が主体的に学ぶ授業を実践していきたい。
			授業によって、思考力、判断力、表現力、およびコミュニケーション力が向上したと回答する、生徒の割合が A 90％以上 B 70％～90％未満 C 50％～70％未満 D 50％未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 96％ 中間評価 A	「よくあてはまる」・「ややあてはまる」を合わせた評価は96％となり、判定基準の90％を大きく上回る結果となった。同時期に実施した教員対象の学校評価アンケートでも、「生徒が思考力、判断力、表現力、およびコミュニケーション能力が向上できるような授業の実践を行っている」に「あてはまる」と回答した教員が97％にのぼり、学習方法による能力の向上を生徒が実感している結果となった。また、自分の思考を言語化し、相手に伝わる表現を考えることで学習内容の理解が深まる相乗効果となっている。 後期も思考、意見交換、発表等の時間を確保し、更なる向上につながる授業を全教員が実践していきたい。
2	【進路実現】 キャリア教育を学校教育全般にわたって充実させ、生徒が将来の仕事について深く考えられる環境を整える。さらに、魅力的な課題研究を創出し、資格・検定・コンテストへの挑戦を通じて、生徒一人ひとりの進路の実現を図る。	① 企業との連携を強化し、生徒に有益な情報を提供して進路相談を充実させる。同時に、学校の教育活動全般を通じて生徒が主体的に進路について深く考える環境を整え、進路意識を向上させる。	就職希望者の1回目（10月末）の就職試験における内定率が A 100％ B 95％以上 C 90％以上 D 90％未満	10月末における内定率を検証 評価 なし	
		② ジュニアマイスター顕彰のゴールド特別表彰およびゴールド・シルバー・ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高め、企業や大学と積極的な連携など取組を改善し、認定者数を増加させる。	ジュニアマイスター顕彰ゴールド、シルバー、ブロンズの認定者数が学校全体で A 60人以上 B 40～59人 C 20～39人 D 20人未満	前期（7月）の認定者数を検証 前期認定者数47人 中間評価 B	前期での認定者数は47人（前年18人）で、その内訳はゴールド取得者が10人（前年2人）、シルバー取得者が28人（前年7人）、ブロンズ取得者が9人（前年9人）であった。また、夏休み中も多くの生徒が技能検定を受検したため、その合格による加点で後期の認定者数も増加する見込みである。 2年前に学校として資格取得の支援体制を改善した効果が、現3年生に顕著に現れており、今後も資格取得に挑戦しようとする気運が生徒の間で一層高まるよう、より組織的に資格取得を促す体制づくりに努めたい。
学校関係者評価委員会の評価			○いろいろなことを試行錯誤して取り組まれているのはすばらしい。これまで取り組んできたことが最初に比べてどこまで進んでいるか。また、生徒のコミュニケーション能力を伸ばしている取り組みについて教えてください。 ○大方の生徒は資格を取得したいと考えていると思うが、生徒は資格を生かした仕事に就いているのか。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策			○公開授業はこれまでも行ってきたが、多くの先生方が授業を参観し、他の先生方の授業を参考にすることで自身の授業改善につなげている。 教員が生徒の説明にあえて聞き返して不足点に気づかせたり、授業でのディスカッションを通して互いに意見を伝え合うことで、コミュニケーション能力を伸ばしている。 ○多くの生徒は資格を生かした仕事に就いているが、そうでない場合でも、学校としては資格取得の過程を重視し、その経験を大切に指導している。		

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
3【人間力育成】 部活動・生徒会活動の活性化、規範意識の向上といじめを許さない学校づくり、ボランティアや地域貢献を通じて、人間力を高める。	① 生徒会の運営について、生徒会執行部が生徒にアンケートを行い、全校生徒が主体的に計画や立案に参加することで、行事への参画意識を高める。	生徒会行事に参加し満足できたと回答する、生徒の割合が A 95%以上 B 85～95%未満 C 75～85%未満 D 75%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 97% 中間評価 A	「大変満足している」・「おおむね満足している」を合わせた評価は97%と、A判定基準の95%を上回った。今年度は、例年の取り組みに加え、1学期にリーダー研修を実施した。学校行事の実施において中心的な役割を果たす生徒の育成に尽力した、この新しい挑戦が良い結果につながったものと考えられる。 後期も多くの行事が予定されている。執行部と連携し、生徒主体の運営にさらに磨きをかけ、参加者にとってより満足度の高い行事運営を目指したい。
	② 生徒が活発だと感じる部活動を行う。部活動がより活発になれば、生徒会行事や学校行事も一層活発になるとともに、学校がより魅力的になる。	所属している部活動が活発だと感じる、生徒の割合が A 90%以上 B 80～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	部加入生徒対象に 7月にアンケート調査 91% 中間評価 A	「よくあてはまる」・「ややあてはまる」を合わせた評価は91%と、A判定基準の90%を上回った。これは昨年度と比較して向上しているものの、2年前の95%超の結果と照らし合わせると、改善の余地を残したものと捉えることができる。 各部活動顧問の尽力は言うまでもない、しかし、公教育における部活動への意識の急激な変化を踏まえ、長期的な視点で本校の部活動のあり方検討し、持続可能な部活動について前向きに考える機会を設け、今後の改善に繋げたい。
	③ 校舎内だけでなく、地域でもしっかりと挨拶をおこなうことで、他者をおもいやる意識を高め、コミュニケーション力の育成の足掛かりとする。	学校以外（地域や登下校時）でも積極的に元気のよい挨拶ができていると回答する、生徒の割合が A 95%以上 B 90～95%未満 C 80～90%未満 D 80%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 95% 中間評価 A	「十分できている」・「ある程度できている」を合わせた評価は95%と、A判定基準の95%を達成した。「朝の挨拶運動」に加え部活動や授業などで先生方が挨拶の重要性の指導を行ったことが高い数値につながったと考えられる。 後期も引き続き挨拶の重要性を指導していきたい。また、生徒の挨拶に対する意識も向上するよう働きかけていきたい。
	④ 規則やマナーを守り、思いやりの心を育むため、生徒への声かけや観察を通じて生徒理解を深め、規範意識といじめ防止の意識を高める。	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が身についていると回答した、生徒の割合が A 100% B 95～100%未満 C 90～95%未満 D 90%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 99.7% 中間評価 B	「十分に身に付いた」・「ある程度身に付いた」を合わせた評価は99.7%と、前年度同期（99%）と同様に高い結果となった。「朝の挨拶運動」や「規範意識週間」等の取組に加えて、「身だしなみに関しての学年集会」や「校内におけるスマートフォン（携帯電話）の使用禁止」等の指導をこまめに行うことによって、生徒の規範意識やいじめ防止の意識が高まったものと考えられる。 後期も引き続き取組を継続し、生徒の行動が変容するよう工夫していきたい。
4【情報発信】 本校の諸活動や工業の魅力を、保護者・地域に効果的に発信する。特に中学生への情報発信を強化し、定員充足を図る。	① 保護者懇談会以外の学校行事に対して、メール配信や羽工便り、ホームページ等の既存の手段に加え、新たなアイデアや工夫を取り入れ、保護者の来校者数を増加させる。	学校公開や文化祭、マラソン大会、PTA活動のような行事等（保護者懇談会は除く）で来校したことのある、保護者の割合が A 70%以上 B 50～70%未満 C 30～50%未満 D 30%未満	保護者対象に 7月にアンケート調査 58% 中間評価 B	保護者懇談会以外で本校に1回以上来校した保護者の割合は58%で、昨年度同時期の47%から約10%の増加となった。 PTA総会では、1年生保護者から要望の多かった工業科目の授業参観を1時間目に設定し、講演会を2本開催したほか、部活動見学の時間も長く確保するなど、来校しやすいよう工夫を凝らした。 校内陸上競技大会では、保護者による給水活動への参加を促すため、ホームページ上で早めに告知を行い、気軽に参加できる雰囲気づくりに努めたので、後期もその流れを継続したい。
	② 本校の活動を広く知ってもらうために、在学生やその保護者、中学生、地域の方に積極的に見てもらうようホームページを改善し、その閲覧数を増やす。	ホームページの閲覧回数が、月平均で、 A 45,000件以上（1日1500件） B 40,000件～45,000件未満 C 35,000件～40,000件未満 D 35,000件未満	5月の閲覧回数 約63,000件 6月の閲覧回数 約62,000件 7月の閲覧回数 約64,000件 中間評価 A	昨年度は閲覧件数が30,000件以上でA評価と設定したので、今年度は15,000件増やし、45,000件以上を目標とした。結果、毎月の閲覧件数は昨年度を大きく上回り60,000件以上となった。昨年同様、1学期は中学生が進路選択のため閲覧する機会も多くあったと推測される。 今後も本校の活動を知ってもらうために、早めの更新を心がけ魅力的な情報を発信していきたい。
5【業務改善】 スクラップ＆ビルドの観点で業務を見直し、さらなる効率化を図る。業務分担の標準化を進め、月平均超過勤務時間を25時間以内に抑える。	① 校務分掌ごとの業務内容を点検し、改善に努めるとともに、生成AIの活用など業務の効率化を推進し、職員の超過勤務時間の削減を図る。	超過勤務時間の月別平均が A 25時間未満 B 25時間以上40時間未満 C 40時間以上55時間未満 D 55時間以上	勤務時間の月別調査の 本校職員の平均値を調査 32時間 中間評価 B	今年度より、各教員が提出する月別勤務時間報告書をもとに、時間外勤務の平均時間を把握・管理する取り組みを開始した。その結果、今年度は4月から7月までの時間外勤務の平均は32時間となった。主に、連休や総体の行事がある時期に部活動の時間外勤務が増加し、平均時間を押し上げる要因となっている。 例えば、顧問一人に負担が偏らないよう、複数顧問による輪番制や外部指導者の活用など、新たな部活動運営の在り方を検討していく必要があるのかもしれない。 また、配布資料の必要性や文書の見直しなど、一つひとつ丁寧に検討を重ねることで先生方の時間削減に繋げたい。
学校関係者評価委員会の評価		○部活動の指導は大変だと思うが、規律をしっかり守らせることが大切である。さらに部活動だけでなく学校全体でいじめが起きないように取り組んでほしい。 ○今はスマホ等で手軽にホームページを見ることができるので、引き続き情報更新をお願いしたい。また、ホームページを見てもらえるよう宣伝することも大切だと思う。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		○いじめ防止の取り組みである規範意識週間の全校発表では多くの生徒が積極的に手を挙げ、原稿を見ずに自分の意見を発表する姿が見られ、日々の成長を実感している。 こうした取り組みにより生徒の規範意識が高まり、いじめゼロにつながっていると考えている。 ○羽工便りを配布する際に「ホームページもご覧ください」とお伝えしてきたが、十分に強調できていなかったかもしれない。今後は積極的に周知できるよう案内を工夫していきたい。		